

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	BS法を用いた中でご利用者と職員との間で話し合い、グループホーム独自の理念を作成。		理念に添った対応、関わりができていどうかの確認を今後、持ちたいと考えている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内に掲示。理念を各職員に配布し、常に自覚と共有が実践できるように取り組んでいる。		毎月グループホーム会議を実施。理念に添った具体的な内容に対する取り組みがなされるよう確認していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族、来所者等の目が届く場所に理念を掲示。運営推進会議や家族の集いを通じ取り組んでいることや様子を伝えている。		法人内全体で広報誌を発行。ご家族、ボランティア、学校、行政、町内会へ送付。施設のパンフレットやグループホーム通信を掲示し、発送している。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	同一建物内のケアハウス、デイサービス、デイホームへの行事に参加をし、グループホームにも来ていただいたりとの交流の機会を設けている。また、隣近所の畑作業のお手伝いや、お茶飲み等の交流の場を大切にしている。		グループホームへ気軽に立ち寄ってくださる方が、まだまだ少ない為、散歩や施設の行事等をきっかけに、気楽に来て頂ける雰囲気作りつとめていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの方に来ていただいたり、近隣にある同法人の施設や託児所に出かけ交流の機会をもっている。日常生活の中で食材の買物、郵便局や市役所へ職員と一緒にいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域での花いっぱい活動に参加をしている。また、近隣の畑のお手伝いをさせていただいたり、高齢者のお話し相手をさせてもらったりしている。		今後も運営推進会議を通じて検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価・外部評価であるが、職員の個々の振り返りや実施する意義について理解してもらっている。		今後、外部評価を活かし、具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方、ご家族から出席していただき、グループホームでの様子の報告や話し合いを行っている。そこでの意見を参考にしサービスの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の訪問介護相談員の方より2ヶ月に一度訪問していただき、ご利用者の相談に乗ってもらっている。市への書類の提出などは、ご利用者からも一緒に行っていただき、市の担当者と関わる機会を設けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とされているご利用者はいらっしゃらないが、研修等を通じ学ぶ機会を設けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の年間計画の一つとして実施している。		直接的な虐待はないが、ご利用者自身が不快、苦痛を感じられる対応がないか、カンファレンスやミーティング等を通じ、振り返りや確認する機会をもっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に話し合いの時間をもち説明(ご家族説明会を開催)の上、納得、理解していただいた上で契約を行っている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	訪問介護相談員の方より2ヶ月に一回来ていただいている。又、運営推進会議や面会等でも話し合い、ご利用者の意見が反映するように努めている。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	広報誌を定期的に発行し、定期受診や面会等でも状態、様子を報告している。個別にも定期的に報告書を郵送するよう、取り組みを行い始めた。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を設置。面会時にも気兼ねなく職員に何でも言ってもらえるよう雰囲気作りや、会話の機会を大切にしている。ご家族の意見交換の場を設けたり、運営推進会議を行い、いただいた意見を運営に反映させている。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月1回グループホーム会議、経営会議、各種委員会を実施。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要に応じて現場の職員の意見も聞きながら調整し、職員の確保に努めている。	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	昨年9月の開設より職員の異動、離職はない。心身の病気にかからないよう健康の維持管理に努め、お互いストレスをためない人間関係作りにも配慮している。	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	各種マニュアルは整備しており、緊急性のあるものは常に目の届くところに掲示。それ以外のものについてはファイルに綴じ、いつでも目を通せるようにしてある。	必要に応じ、常に見直しを行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内の研修をはじめ、法人内での事例検討、法人外での研修会にも参加している。又、職員の経験年数に応じた研修も実施している。</p>	<p>法人内の交換研修も実施していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内において部会を毎月1回開催。各グループホームの現状報告や意見交換、勉強会を通じ質の向上へと繋げている。</p>	<p>法人内のグループホームで問題点なども共有し解決していきたい。同じサービス、良いサービスを提供していけるよう協働していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の意見や思い、気持ちをさりげなく言い合える雰囲気作りに努めている。施設長により個別面談等で意見を聴いてもらっている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人内や外部への研修や事例検討会への参加。月1回のグループホーム会議で現状や取り組みの確認を行っている。個別研修シートを活用し、個々の目標達成に努力するよう努めている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまで本人にお会いし、本人自身からお話を聴く機会を設けている。十分に説明し、本人が安心できるように努めている。初期には、本人が言いやすいような雰囲気や場面作りに努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みの時点で、困っていることや不安なこと、求めていること等を家族からお聴きし、相談にのるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援があれば、ケアマネへ報告・相談したり、法人内の各種サービスへ繋がられるように他施設と連携を図っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や説明などを行っている。併設のケアハウスやデイサービスから入居される方もおられるため、日頃から交流を図り雰囲気に馴染んでいただいたり、入居後も交流を図っていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者も職員も常に協力し、支え合い、一緒に生活をしているという意識を大切にしている。見守ったり、一緒に考えて行ったり、教えていただくことを大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設の行事に参加していただき、一緒に楽しんだり、協力してもらったりしている。受診については、ご家族から付添っていただくことを基本とし、何かあれば相談させていただいている。アセスメント用紙を記入していただいたり、グループホーム通信もご家族と一緒に作成している。		今後も、色々なことをご家族と一緒に考え、一緒に行っていけるように努めていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、日頃の様子をお伝えするようにしている。関係が途切れないように、施設の行事に参加していただいたり、気軽に立ち寄れるような接遇や雰囲気づくりに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仲の良かった方から面会にきていただいたり、面会時に来られた際は、ゆっくり過ごしていただけるように努めている。ご本人の、馴染みの場所にお連れしたり、自宅への外出や外泊等も協力していただいている。自宅の畑のお手伝いにお連れしたり、ご家族の結婚式にもお連れしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が気持ちよく生活していけるように、必要な時は職員が間に入り、大きなトラブルにならないよう配慮したり、ご利用者同士の関係や背景を把握し、仲良く過ごせる場の設定や雰囲気作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、契約が終了した事例はないが、お手紙で様子をお伺いしたり、ご利用者と一緒に面会にお伺いするなど、関係を断ち切らないお付き合いを大切にしていきたい。関わりを必要とされる、ご利用者やご家族には相談に応じていく体制づくりをしていきたい。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりのご利用者にお伺いする機会を設けたり、日々の言動からも、その方の思いを読み取る努力をしている。ケアプラン見直しの際は、ご本人の意向を確認している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・ご家族にお伺いする。ケアマネより情報をいただいたり、センター方式の1部の書式を用い、ご家族より記入していただいたりしている。また、ご家族や知人の面会時にお話をお聞きしたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録や写真に残し、確認・把握するようにしている。職員間の会話の中で把握し、働きかけを行うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者が、ご本人やご家族の意向をお伺いし、相談してケアプランを作成している。カンファレンスで他の職員とプランの内容について検討し、見直した上で、ご本人とご家族に確認していただくよう取り組みを始めている。		昨年9月の開設であり、全員のご利用者について確実に行えていないため、確実に行って行くように努めていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、6ヶ月ごとにご本人・ご家族と話し合い、見直しを行うように努めている。ご本人の変化に伴い、その時点でも見直しを行っていくよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、業務日誌に記録し、グループホーム全職員が確認し、情報の共有に努めている。グループホーム会議やカンファレンスの際、意見を聴いて、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の機能を活かし、他事業所の様々なイベントや行事に参加する機会が多く、楽しんでいただいている。法人内のグループホームとも連携をとり、行事に参加させていただいたり、サービスを紹介するなどの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用としては、幅はまだ狭いが、運営推進会議で意見をいただいたり、ボランティアの受入れも行い、協力しながら支援している。グループホームけやきの杜として、どのように地域へ還元できるかが今後の課題である。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態や必要に応じて法人内の事業所と連携を取り、サービスを利用していただく等の支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員も勤めていただいております、気軽に相談できる関係作りは出来ている。緊急時も必要があれば連絡をする体制ができており、ケアマネジメント等についても必要に応じ相談にのっていただいております。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅時からのかかりつけ医を継続して利用されている。また定期受診はご家族から対応していただき、受診時必要があれば連絡表で状態をお伝えしたり、電話にて直接ご相談させていただいております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の三島病院が認知症疾患センターであり、必要に応じ相談、受診、治療が出来る体制となっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	兼務で併設のデイサービスの看護師が関わっており、日々の情報交換とともに相談や確認を随時とれる体制となっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要な状況に応じ、医療機関と相談、話し合いを行い一緒に考え対応していける体制作りに努めている。そうした場合に備え、日頃から文書や電話にて状態をお伝えしたり、相談したりしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を作成。重度化した場合や終末期のあり方や連携等についても説明させて頂いているが、職員間での指針の共有については、まだ不十分である。		指針はあるが、職員間での共有については不十分なところがある。現状として重度化・終末期の対象者となる方はいないが、会議等で方針を共有できる機会を持ちたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴う指針について説明。ご本人、ご家族の意向に沿った中での支援を基本としているが、事業所として「できること・できないこと」について明確な線引きは行っていない。その都度、ご家族や医療機関に説明、相談し、どのような方向がご本人にとって一番良いのかを、一緒に検討していきたい。		医療的な支援や重度化に伴い、現行のグループホームの設備・体制的に適確な支援の継続が難しい状況になってきた場合は、他のサービスへの移行を含め相談させていただくことを、指針とともに説明させていただいている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にご本人の状態について説明し、情報の共有に努め、ご利用者の混乱を防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>羞恥心のあるご利用者には同性介助を基本に対応させていただいたり、危険のない範囲で見守りしている。その方の誇りやプライバシーに配慮した関わり、支援に努めている。個人情報の取り扱いについては、鍵つきの棚に保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>アイデア料理やお菓子、飲み物、外出等選んでいただけるような場面、機会の設定や、意思表示し易い言葉掛け、非言語的コミュニケーション等も大切にしている。</p>	<p>今後も、生活の中で自己決定の場面が多くもてるよう支援していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人のペース、意向に沿った支援を努めているが、健康を害されることのないよう支援することを大切にしている。</p>	<p>ご本人のペースや希望通りでよいのが、なかなかつかめない方もおられる。どのように対応していくことが、ご本人にとって一番良いのかをカンファレンス等で検討しながら、職員の都合やペース、自己満足にならないように、今後も注意して支援していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の希望やご家族の意向をお聞きし対応している。ご自分なりにおしゃれを楽しまれている方もおられる。理容・美容に関しては、ご家族が連れて行かれる方もいれば、グループホームに理容師さんから来ていただく方もいる。また、馴染みのお店からの送迎で一人で行かれる方もいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>アイデア料理の日は、メニューをご利用者と一緒に考えたり、毎日の食事作りは、食材選びから後片付けまで、一連の流れについて出来るところをお手伝いいただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつを自室で自己管理し召し上がられる方もおり、食べたい物や飲みたい物など、なるべくお聞きするようにしているが「何でもよい」というお答えが多い。時々、出前やお惣菜等食べたい物の購入も行っている。</p>	<p>自分で持っているとお菓子や飲み物を食べ過ぎてしまう方もおり、自己管理が難しい方については、希望時お渡ししている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ほとんどの方がご自分でトイレに行かれている。間に合わず汚された場合や、必要がある方には言葉掛けや誘導、介助を行っている。		自尊心を傷つけることのないような対応や、言葉掛けに努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりと入浴していただけるよう支援している。ご希望がある方に関しては、希望の日時に入浴していただいている。		入浴拒否の方もおられるため、対応について気持ちよく入浴していただけるよう検討・努力して行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のリズムや習慣的なものもあり、夕食後直ぐに休まれる方もいれば、テレビを楽しまれる方、寝付けずに起きて来られる方など、その方のペースにあわせた中での支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや茶碗ふき、たたみ物など女性の方はご自分の役割として行っておられる。お一人おひとりの力や特技、趣味を活かした支援に努めている。		施設サイドの勝手な思い込みにならないよう、ご本人の日々の言動をよく見ながら検討、対応していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感の為小銭を持参されている方もおられる。買物等で使うことをお勧めしても、遠慮や不安があるためか使われない方が多い。散髪時支払う方もおられる。スーパーでの買物時(施設の)お金をお支払いいただくよう支援している。		ご本人の好きな食べ物や洋服などを、ご自分でお金を払って買っていただけるよう働きかけていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩、ドライブ、月別外出など、お体の状態や希望に添って、出掛ける機会を持つよう努めている。		冬期間は買物以外なかなか外出することが難しいが、併設のケアハウスやデイサービスと交流を図ったり、月1回は外出できるように努めていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と一緒に外出できるような機会を計画している。また、個別にご家族と出掛けられる方もおられる。		ご家族からも協力していただき、一緒に外出できるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話を掛けていただいている。手紙(はがき)等についても自由にやり取りができるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の居室やリビングで、一緒にお茶を飲みながら、居心地よく過ごせるよう支援している。いつでも気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりと接遇を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学習したり、法人全体として身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出時に自ら居室の鍵を掛けられる方もおられる。日中は玄関の施錠はしていない。		建物の構造上、安全面に配慮し、下へ降りられないようになっているが、なるべく下へ行っていただけるよう支援していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は生活の場面で利用者の所在、状態の確認を行っており、夜間は1時間おきに巡回し、ご利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	お一人おひとりの状態に応じて注意が必要な物の持込や取り扱いの対応をしている。危険の伴う物は所定の場所で保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとアクシデントレポートがあり、再発防止に努めている。研修などによって知識を学んでいる。危険箇所については、担当者が安全確認を行っている。		ひやりはっとアクシデントレポートを活用し、原因の追究と改善策を検討している。必要に応じケアプランにも追加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、職員に周知している。研修で対応を学んでいる。		今後もマニュアルの再確認や発生時の具体的動きや対応について、学習会等を設け訓練を実施していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	研修で対応を学んだり、防災訓練を定期的に行い、避難方法なども身に付けている。各部署や近くの特養との協力体制が出来ている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	環境や状態により一人ひとりに起こりうるリスクについてご家族に説明し、必要に応じケアプランに立案し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より、日常の状態の確認・把握を心掛け、体調の変化や異変の早期発見に努めている。申し送り等で情報を共有しご家族、看護へも報告、相談している。心配があれば、早目に主治医に連絡し、指示をいただいたり、早目に受診していただいている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量、注意事項などの記された説明用紙をファイルに綴じてあり、随時確認できるようになっている。状態の変化に伴い、主治医にも報告し、服薬の調整を図ってもらっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に野菜を多く取り入れたり、乳製品を取り入れたりしている。水分の摂取量にも注意し、便秘、脱水しないよう働きかけている。		外出をしていただくよう働きかけているが、運動不足も感じられる。その為、体を動かす・運動してもらえるように働きかけていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きやうがい等を働きかけており、口腔状態や個々の力に応じた中での援助に努めている。		口腔ケアは、健康維持の為に重要であることを認識し、口腔ケアについて適切な支援が行えるよう、研修の機会を検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、必要量を確保出来ているかを把握している。状態に応じてご家族や、主治医にも相談し、対応している。献立は、管理栄養士からアドバイスを貰っている。		施設の管理栄養士からも、一緒に食事を作ったり、食べてもらう機会を設けて関係作りを図り、相談したり、アドバイスを貰ったりしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに従って対応しており、施設内研修会等でも対応を学んでいる。		ノロウイルス感染予防として、塩素系ハイターを薄めたもので、1日2回手すりや、テーブル拭きを実施している。タオルについても、1回使用したら消毒し洗濯する様に対応している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は定期的にハイター消毒し、衛生管理に努めている。食事は主に近所のお店から、新鮮で安全な物を購入し使用している。魚肉については、必ず、調理当日に購入し使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花いっぱい運動に参加しており、施設の玄関や建物周囲、中庭等にも花が多く近の人等が訪れやすい環境作りに努めている。またグループホームの玄関に、最近の写真や季節のものを飾ったり、ソファーや椅子に座って景色を観たり、花を見たりしてくつろげる雰囲気に努めている。		建物の構造上、近隣の人等にとって、判り易く出入りしにくい雰囲気がある為、今後も工夫しなければならないと感じている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、不快な音やカーテンなどで光が眩しくないように配慮している。バルコニーでお花や野菜を育てたりして、食堂から見渡せるように配慮している。また、季節を感じていただけるような装飾を行い居心地よく過ごせるように工夫している。		装飾については充分とは言えない為、今後ご利用者と職員で相談し、手作りであたたかさを感じられるような工夫をしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋、ソファー、談話コーナー等、気の合う仲間が集まったり思い思いに過ごせる、居場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人、ご家族と相談して、ご本人が慣れ親しんだものを、安心して居心地よく過ごせるように持ち込んでいただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を実施している。温度調節はご利用者の希望や体調を考慮し状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを設置し、安全に生活できるよう工夫している。廊下には、ベンチが設置してあり気軽に休めるようになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できないこと困っているところは一緒にさせていただき、できることはしていただくように支援している。また、ご自分の居室とわかっていただけるようにご自分で選んだ布で居室の暖簾を作っていたり、目印になる物を付けたり置いたりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑や庭、ログハウスがあり園芸を楽しんで頂いている。収穫した物を調理して召し上がって頂いている。バルコニーでも食事会をしたりプランターでお花や野菜を育て楽しんでいただいている。		ログハウスでの茶話会や、食事会、交流会等を実施し、楽しんでいただきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・同法人内のグループホームの方々と交流させていただいたり、併設しているケアハウス、デイホームから、グループホームへ入居された方もおられ、安心できる馴染みの関係ができているため、交流を楽しんでいただいている。
- ・周囲には畑、庭など自然に恵まれており、ご家族や近所の方からご協力いただき、4階バルコニーをはじめ、ご利用者の自宅の畑やご近所の家の畑で、畑仕事や花作りを楽しんでいただいている。
- ・4階である為、外出する機会や地域とのかかわりが少なくなる事のないよう、なるべく地域や馴染み、かかわりのあった場所へ外出していただけるよう支援している。